

弘法の道標

木 積 を 歩 く

市内（旧野栄町を除く）では江戸時代の道標が8基確認されています。このうち石柱上部に「弘法大師像」が彫られたものが1基あり、なぜ大師像なのか、長い間疑問でした。

真言宗を開いた弘法大師空海の生誕1250年を記念し、博物館や美術館などで真言宗寺院の特別展や弘法大師信仰の展示などがありました。

房総における弘法大師信仰についての解説で、四国八十八ヶ所霊場を写した「新四国八十八ヶ所霊場」が県内各所に設けられ、道標はそれに関するものとの指摘に、疑問が解けたように思

いました。

木積・龍頭寺境内に大師像が彫られ「弘法の道標」とも呼ぶべき道しるべがあります。高さ118cmの石柱正面上部に大師像、その下に「東 八日市場 太田（旭市） てうし（銚子）」、右側面「北 さくら（佐倉）」と造立年月日、左側面に「南 いいくら（飯倉） よこしば（横芝） 東がね（東金）」、裏面には「西 たこ（多古） さくら 江戸」と刻まれ、1793（寛政5）年2月21日に建てられたことが知られます。東総地域の「新四国八十八ヶ所霊場巡り」は1785年に一番霊場・長禅寺（旭市野中）住職が始めたとされ、堀川西・吉祥院所蔵1852年の掛け軸（本紙令和5年4月号に掲載）には、「第85番霊場 木積 龍頭寺」とあります。

龍頭寺の「弘法の道標」は、江戸時代後期に盛んとなったこの地域の新四国巡りの人たちの道しるべだったのでしよう。

同寺門前が三差路になっていて、かつてはおそらくこの辺りに建てられていたのでしょうか。同寺には江戸時代後期の『図絵』にも描かれた龍神の池があり、雨乞い信仰祈願の幟旗^{のぼり}が奉納されたとも伝わります。道標には造立者名がありませんが、同寺を信仰する人たちによって建てられたのかも知れません。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

閏秘書課広報広聴班 ☎73・0080



龍頭寺にある弘法の道標